

体育学部体育学科

科目コード	36501		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能 I		担当者名	飯出 一秀			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成. を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

運動器の解剖と機能を学ぶことを通じて、スポーツ指導者に求められる科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を修得するための科目である。健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けていることを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出30%、課題内容30%、質疑応答への参加30%、出席率等を総合的に判断する。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	機能解剖学とは
2	体表区分	人体の区分
3	運動の表し方	基本多岐な関節運動
4	運動器の構造と機能	骨の構造
5	運動器の構造と機能	関節の九蔵と機能
6	運動器の構造と機能	靭帯の構造と機能
7	運動器の構造と機能	筋・腱の構造と機能
8	運動器の構造と機能	骨格筋の構造と機能
9	体幹の機能解剖と運動	脊柱の運動
10	体幹の機能解剖と運動	頸椎の運動
11	体幹の機能解剖と運動	胸椎の運動
12	体幹の機能解剖と運動	腰椎の運動
13	体幹の機能解剖と運動	仙椎の運動
14	体幹の機能解剖と運動	骨盤の運動
15	まとめ	総合学習

体育学部体育学科

科目コード	25103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発育と発達		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、人間の身体の発育・発達における基本的理解を深め（30分程度）、毎時の課題となるレポート作成に取り組む（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身につける。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身につけることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

<参考書>

（公財）日本スポーツ協会（2019）
公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト（公財）日本スポーツ協会杉原隆・河邊貴子（2014）幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-ミネルヴァ書房（財）健康・体力づくり事業財団（2008）健康運動指導士養成講習会テキスト（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	36502		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能Ⅱ		担当者名	飯出 一秀			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成. を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

運動器の解剖と機能を学ぶことを通じて、スポーツ指導者に求められる科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を修得するための科目である。健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けていることを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出30%、課題内容30%、質疑応答への参加30%、出席率等を総合的に判断する。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能	手関節の運動
6	運動器の構造と機能	股関節の運動
7	運動器の構造と機能	膝関節の運動
8	運動器の構造と機能	足関節の運動
9	運動器の構造と機能	足趾関節の運動
10	運動器の構造と機能	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習

科目コード	36505		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅰ		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）、ディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられている科目である。スポーツ現場において競技者の体力を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加），課題・発表（適宜出される課題，最終課題，発表）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ATに必要な評価（1）	ATによる評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	ATに必要な評価（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	ATに必要な検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	ATに必要な検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	ATに必要な検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	ATに必要な検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	ATに必要な検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	ATに必要な検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	ATに必要な検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	ATに必要な検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	ATに必要な検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	ATに必要な検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定の検査項目とその目的と概要
14	まとめ（1）	総合学習
15	まとめ（2）	ATに必要な検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	36506		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）、ディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられている科目である。スポーツ外傷・障害発生の観点から、競技者の体力および動作を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

体育学部体育学科

科目コード	61005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動障害と予防および救急処置		担当者名	河合 洋二郎			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

<授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）及びDP5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。）に対応している。 |

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験80% 授業態度・提出物20%

<教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」
財団法人健康・体力づくり財団

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について

体育学部体育学科

科目コード	61010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ・レクリエーション演習		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

<授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

<授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開する。前時の講義内容の振り返りを、毎時において小テストを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

(公財)日本レクリエーション協会

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」

2019年

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15	まとめ	講義内容全般における振り返り

科目コード	21100		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職入門		担当者名	久田 孝			○		
配当年度	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ(学習者)側から、教える(教授者)側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補充していく。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。(ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度) 復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。(毎回1時間程度) ※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)と関連付けられている。現代日本の初等教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、次世代をなう教育者として学び続ける姿勢や思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート・小テスト 70% ※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・代表編著2020, 4 『新しい視点から見た教職入門』 大学教育出版
 「渡邊 正樹 2020, 3, 27」 「女性スポーツ研究センター 2020, 12」 「学校安全と危機管理」 「女性アスリートダイアリー2021」 「大修館書店」 「大修館書店」
 文部科学省 2010, 3 生徒指導提要 教育図書

<参考書>

梶田叡一 2010, 8 改訂 実践教育評価辞典文溪堂
 梶田叡一 2012, 8教育フォーラム50<やる気>を育てる 金子書房
 日本学校メンタルヘルス学会 2017, 9学校メンタルヘルスハンドブック大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師(学校)をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事(1)～小学校～	小学校教諭の1日(業務内容)を理解する。
5	教師の仕事(2)～幼稚園～	幼稚園教諭の1日(業務内容)を理解する。
6	教師の仕事(3)～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日(業務内容)を理解する。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方(予防と対処)を理解する。
11	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
13	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	まとめ	①これまでの学びをふり振り返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見直しをもつ。

体育学部体育学科

科目コード	38200		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎)		担当者名	片桐 夏海			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、体育指導者に求められる豊かな人間性、幅広い教養に根ざした公共的使命感や倫理観、協働できる社会的スキル（DP6）を身につけると共に、修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、新たな課題に主体的・創造的に取り組み、その課題を解決出来る能力（DP8）を育成するための教職基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）

「学校学習指導要領解説—保健体育編—」

東山書房

<参考書>

高橋健夫他（2010）

体育科教育学入門大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

体育学部体育学科

科目コード	38200		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎)		担当者名	白石 翔			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、体育指導者に求められる豊かな人間性、幅広い教養に根ざした公共的使命感や倫理観、協働できる社会的スキル（DP6）を身につけると共に、修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、新たな課題に主体的・創造的に取り組み、その課題を解決出来る能力（DP8）を育成するための教職基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）

「学校学習指導要領解説—保健体育編—」

東山書房

<参考書>

高橋健夫他（2010）

体育科教育学入門大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

科目コード	38201		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)		担当者名	齋藤 祐一			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必要な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）
 復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、「科学的根拠や思考を持って、体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力（DP5）」を育成すると共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力（DP7）」を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく、保健体育科教員としての自覚と責任のもと、常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%、レポート（含指導案） 40%、マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
 中学校学習指導要領解説 保健体育編
 東山書房

<参考書>

文部科学省（平成30年7月）
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編東山書房岡出美則他（2021）体育科教育学入門大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え、単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15	まとめ	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの

科目コード	65047		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ		担当者名	嘉門 良亮			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアマネジメントⅠは、教職に就くために必要な知識・技能の獲得を目指し、グループワークを用いながら実施する。また、教職の適性を自ら確認し、今後の教員としてのキャリアを描くことができるようにする。

<授業の到達目標>

キャリアマネジメントⅠ～Ⅳ（Ⅴ）は、教職に就くため、下記の目的と、その目的を達成するため3つの目標を設定する。【目的】「教員に必要な知識、技能、能力、態度を育成する」【目標】① 教職の適性を確認し、他者と協働しながら、教職生活を通じて学び続ける態度を身に付ける。② 教員として、授業を実施するために最低限必要な教科専門の知識と技能、そして教員の日常の職務を遂行できる最低限の知識と教養を獲得する。③ 自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探究できるようになる。 キャリアマネジメントⅠでは、

<授業の方法>

本授業ではグループワークを中心として、教員・学生で議論をしながら進める。また、Google classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎時間課される事前課題について（1時間）復習：毎時間課される事後課題について（1時間）各回に授業テーマに関連する課題を指示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育学科ディプロマポリシー4「現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。」に関連する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、グループワーク20%、レポート60%で評価する。

<教科書>

指定なし

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員というキャリア	教員のキャリア及び職務の実態についてデータ及び実務経験者の話に基づいて理解し、自らの教員としてのキャリアについて考える。
2	保健体育の在り方について～保健体育における体育（運動）偏重を考える～（1）レポート作成	テーマに関連して示される課題に対して、どのようなアプローチが可能かグループでディスカッションし、レポート作成に取り組む。
3	保健体育の在り方について～保健体育における体育（運動）偏重を考える～（2）グループディスカッション&プレゼン作成	各自で作成したレポートを相互評価・添削する。グループで情報を統合し、更なる情報収集、意見交換を行い、プレゼンを作成する。
4	保健体育の在り方について～保健体育における体育（運動）偏重を考える～（3）プレゼン発表&修正	作成したプレゼンを発表し、教員や学生からフィードバックを受ける。それを踏まえて、グループでさらに情報収集、意見交換しプレゼンの内容を推敲する。
5	保健体育の在り方について～保健体育における体育（運動）偏重を考える～（4）修正版プレゼン発表	修正したプレゼンを発表し、全体で質疑応答・総合討論を行い更に知見を深める。
6	身体を通じた規律訓練について～体育における徳育主義を考える～（1）レポート作成	テーマに関連して示される課題に対して、どのようなアプローチが可能かグループでディスカッションし、レポート作成に取り組む。
7	身体を通じた規律訓練について～体育における徳育主義を考える～（2）グループディスカッション&プレゼン作成	各自で作成したレポートを相互評価・添削する。グループで情報を統合し、更なる情報収集、意見交換を行い、プレゼンを作成する。
8	身体を通じた規律訓練について～体育における徳育主義を考える～（3）プレゼン発表&修正	作成したプレゼンを発表し、教員や学生からフィードバックを受ける。それを踏まえて、グループでさらに情報収集、意見交換しプレゼンの内容を推敲する。
9	身体を通じた規律訓練について～体育における徳育主義を考える～（4）修正版プレゼン発表	修正したプレゼンを発表し、全体で質疑応答・総合討論を行い更に知見を深める。
10	中間ふりかえり	これまでのテーマをふりかえるとともに、教員や上級生の実体験や経験から教員というキャリア事例およびキャリア戦略を学ぶ
11	運動部活動の在り方について～スポーツにおける勝利至上主義を考える～（1）レポート作成	テーマに関連して示される課題に対して、どのようなアプローチが可能かグループでディスカッションし、レポート作成に取り組む。
12	運動部活動の在り方について～スポーツにおける勝利至上主義を考える～（2）グループディスカッション&プレゼン作成	各自で作成したレポートを相互評価・添削する。グループで情報を統合し、更なる情報収集、意見交換を行い、プレゼンを作成する。
13	運動部活動の在り方について～スポーツにおける勝利至上主義を考える～（3）プレゼン発表&修正	作成したプレゼンを発表し、教員や学生からフィードバックを受ける。それを踏まえて、グループでさらに情報収集、意見交換しプレゼンの内容を推敲する。
14	運動部活動の在り方について～スポーツにおける勝利至上主義を考える～（4）修正版プレゼン発表	修正したプレゼンを発表し、全体で質疑応答・総合討論を行い更に知見を深める。
15	キャリアマネジメントⅠの総括	キャリアマネジメントⅠの総括を行う。

科目コード	65047		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメント I		担当者名	横内 浩平			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。
※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する公式等の下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業中に解き方を示した問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、体育学科のディプロマポリシー4（現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている）と関連づけられている。公務員試験対策をする上で必要とされる数学的な基礎学力を身に付け伸ばすことを目指している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

資格試験研究会（2022年2月18日発行）

2023年度版 高卒程度公務員 知能分野問題集実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

科目コード	65047		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメント I		担当者名	竹本 豊			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、公務員志望の学生だけでなく公務員に関心がある学生まで、幅広く想定している。公務員は、実際にはどのような仕事をしているのか、どのような心構えや使命感を持って取り組んでいるのか、などといったことを、行政・教育・公安（消防）分野での実体験を踏まえ、民間企業（会社員）と比較しながら解説する。|学生ひとり一人が、公務員という仕事を身近に感じ、具体的にイメージできるようになることで、進路としての公務員への関心を高め、意欲的・主体的に公務員試験に臨めるようにする。|

<授業の到達目標>

1. 地方公共団体のしくみ、特に民間企業との違いを理解する。|2. 様々な職種の公務員がどのような仕事をしているかを大まかに把握する。|3. 公務の基礎的な論点について、自分なりの考えを養い、他者と意見交換できるようになる。

<授業の方法>

1. 教科書を題材とする。| ポイントとなる部分については、配布資料を利用するほか、適宜、公務の実態を伝えることで理解を深める。（質疑あり）|2. 提示した論点（テーマ）について、グループディスカッションにより相互理解を深める。|3. グループディスカッションの結果発表と意見交換。|4. 質問等について、次回の授業冒頭で解説することもある。|※配布資料のダウンロードや質問について、classroomなどICTを活用する。|

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当部分に目を通しておく（約1時間）。|復習：授業で解説されたポイントについて、配付資料などを基に復習する（約1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

公共部門における現状についての知識を獲得し、現実の課題を戦略的に解決するための基礎を身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業態度（35%）：ディスカッションや質疑での積極性、他の学生の理解促進への貢献を評価。|2. 確認テスト（15%）：適宜、授業中に実施する確認テストにおいて、理解度を評価。|3. 期末レポート（50%）：自主的な学習の達成度を評価。

<教科書>

自治研修研究会編（2020.1.10）

地方公務員フレッシュャーズブック（第5次改訂版）

ぎょうせい

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業全体の説明
2	地方公務員の心構え	基本的な心構え、職場等での執務の心構え、職場の人間関係についての心構え、私生活上の心構え（民間企業との違い）
3	職場と仕事	地方公共団体の仕事を運営する仕組み、効率的・効果的な仕事の進め方（民間企業との違い）
4	接遇	接遇の基本、対応の仕方
5	文書事務	地方公共団体の文書、文書事務の処理手順、公用文の作成、広報
6	地方自治制度①	地方自治の位置付け、地方公共団体の種類と事務、地方公共団体の区域と住民
7	地方自治制度②	地方公共団体の機関、国と地方公共団体との関係・地方公共団体相互間の関係等、地方分権は実践の時代へ
8	地方公務員制度①	基本理念、職員の範囲と種類、人事機関、任用（民間企業との違い）
9	地方公務員制度②	職員の義務・責任、職員の権利、職員の勤務条件、給与、人材育成と人事管理、福利厚生（民間企業との違い）
10	地方公共団体の税財政と財務①	地方税財政
11	地方公共団体の税財政と財務	地方財務
12	地方公共団体の主な施策①	健康の確保と福祉の充実、環境の保全、産業の振興
13	地方公共団体の主な施策②	地域発展の基盤整備、教育文化の振興、安全な生活の確保
14	地方分権の時代と地方公共団体の課題	地方分権、地方創生、地方公共団体と職員に求められるもの
15	まとめ	授業全体のまとめ

科目コード	38401		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	武道指導論		担当者名	平田 佳弘、矢野 智彦			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。
2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。
3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）
2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）
3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション
4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）
 復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科ディプロマポリシー6「体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。」と関連付けられています。現代社会において果たす体育・スポーツ、さらに武道の役割を深く理解し、武道に関する知識、技能、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を培う科目がこの「武道指導論」です。武道とは何か、武道教育とは何か、武道教育の役割とは何かを、講道館柔道と剣道の観点から追求し、武道指導者としての総合

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

科目コード	65019		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	宮園 司史			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

オンデマンド方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれのテーマについて、新聞、書籍、刊行物、インターネットなどから必要な情報を収集するなどして、課題に回答できるよう準備しておくこと（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。また、体育学科のディプロマポリシー1「体育・スポーツの科学的知見を深め、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する能力を身に付けている。」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①成績評価については、授業内容の理解度60%、授業参加の積極度40%で評価する。|②授業内容の理解度については、毎回の課題の回答内容の採点結果をもとに評価する。|③授業参加の積極度については、課題の提出状況をもとに評価する。|④規定以上の欠席回数がある場合や受講態度に問題が多い場合には、単位を認めないので、注意すること。

<教科書>

指定なし

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	40101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)		担当者名	中川 和之			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとす。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。| 2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。| 3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）及び汎用性技能（DP4:現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている）を習得する科目である。「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力」を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、グループ学習を通して、バスケットボールの競技特性および競技

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席30% 授業態度 20%（個人+集団）、実技40%（平常スキル+スキルテスト）、知識レポート10%

<教科書>

指定なし

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	バスケットボールの成立ち、基本技術の習得（1）	バスケットボールの歴史や競技特性について解説、ボールハンドリング技術、ドリブル技術の練習
3	ルールやコート名称・基礎技術の習得（2）	バスケットボール競技のルールやコート名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
4	基本技術の習得（3）	バスケットボール競技のルールやコート名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習②
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習③
7	基本技術の習得（6）	ディフェンス技術の練習
8	応用技術の習得（1）	2対1等の攻防（ハーフコート）
9	応用技術の習得（2）	3対2等の攻防（ハーフコート）
10	集団戦術（1）	2対2、3対3の練習（ハーフコート）
11	集団戦術（2）	2対2、3対3の練習（オールコート）
12	リーグ戦（1）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
13	リーグ戦（2）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
14	リーグ戦（3）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
15	まとめ	スキルテスト

体育学部体育学科

科目コード	40102		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレーまで、プレーする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないと言う構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な個人技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ楽しさを味わう。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論を理解させ授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習能力」を育成する基礎科目となる。ステップアップ科目として「バレーボールⅡ」と関連している。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入(バレーボールの特性)	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
4	基礎技術について(1)	スパイク及びブロック
5	基礎技術について(2)	レシーブ、セット、サーブ
6	基礎技術の複合練習(1)	移動パス及びペッパー
7	基礎技術の複合練習(2)	ハイセット及び三段攻撃
8	基礎技術のまとめ(1)	複合練習と実技テスト
9	基礎技術のまとめ(2)	複合練習と実技テスト
10	競技規則と審判法	審判トレーニング
11	試合形式(1)	リーグ戦及び審判トレーニング
12	試合形式(2)	リーグ戦及び審判トレーニング
13	試合形式(3)	リーグ戦及び審判トレーニング
14	試合形式(4)	リーグ戦及び審判トレーニング
15	まとめ	総合的レポート

体育学部体育学科

科目コード	40119		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育学科のディプロマポリシーに（増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）に対応した科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

指定なし

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

体育学部体育学科

科目コード	40120		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。|履修上限60名

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。(2時間)
 復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けることに加え、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる社会的スキルを身に付ける。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

指定なし

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

科目コード	40121		区分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本 清人			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認） 2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。 3. ディスカッション（問題提示に対する回答） 4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- (1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間)
- (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）、4（現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。）、6（体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共の使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

指定なし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会
「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40104		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボール I (基礎)		担当者名	前田 誠一			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的集め、内容をチェックする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付け、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付ける。 体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

指定なし

<参考書>

笹倉清則(2003)

「Tactics of Handba in The Word」財団法人日本ハンドボール協会酒巻清治(2012)「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明
2	攻撃の個人技術(1)	ゲームに必要な個人の攻撃技術
3	攻撃の個人技術(2)	シュートに着目した個人の攻撃技術
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)
15	ゲーム(7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(6)

体育学部体育学科

科目コード	40202		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体カトレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。|

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力」を育成する基礎科目となる。「バレーボールⅠ(基礎)」のステップアップ科目として関連している。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会(2017年2月10日版)
コーチングバレーボール(基礎編)|

大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法(6/9)	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(1)	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(2)	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(1)	基礎技術の指導(パス、アタック、ブロック)と救急法実習
9	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(2)	基礎技術の指導(サーブ、レセプション)と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法(2/4/6/9)(1)	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法(2/4/6/9)(2)	練習方法と指導実習
14	フォーメーション(基礎)	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート

科目コード	51011		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)		担当者名	齋藤 祐一			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、体育学科のディプロマポリシー8「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。」と関連づけられています。教職課程（保健体育）で身に付けた知識、技能等を実際の教育現場での授業にいかに関与できるか、どのように結びつけていくことができるかが求められる。さらに、豊かな人間性、幅広い教養に根ざした「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を養成する科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え (1)	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え (2)	教育実習を成功させる準備と心得
3	教育実習の意義と心構え (3)	道徳・特別活動・総合学習時間の指導
4	教育実習の方法と技術 (1)	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割
5	教育実習の方法と技術 (2)	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案
7	研究授業（模擬授業）の方法 (1)	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法 (2)	学習指導案のねらい・内容と書き方
9	研究授業（模擬授業）の方法 (3)	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫
10	研究授業（模擬授業）の方法 (4)	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導
11	研究授業（模擬授業）の方法 (5)	個別学習・グループ学習の進め方
12	研究授業（模擬授業）の方法 (6)	学習評価とその活用法
13	研究授業（模擬授業）の方法 (7)	研究授業の実際～過去の実習生の事例～
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成